

「日本遺産」の認定について

【担当省庁】文部科学省、文化庁

天橋立などの京都の資産群の「日本遺産」への認定

- ◆ 国において創設を検討されている寺社や仏閣、伝統芸能など地域の有形・無形の文化財をパッケージ化した「日本遺産」を認定する仕組みは、地域に点在する様々な遺産をストーリーでつなぎ資産群として光を当てるものであり、地域アイデンティティの再確認にもつながる重要なものと認識している。

京都には、天橋立など我が国の文化伝統を語るストーリー性の資産群が多数あり、今後、この資産群を活用し、地域アイデンティティの確立と観光ルートの整備・活用による地域活性化を図りたいと考えている。

については、「日本遺産」の認定の仕組みを早期に創設していただくとともに、京都の資産群を「日本遺産」に認定していただきたい。

<京都の資産群>

- 天と地と海をつなぐ天橋立
- 日本の茶文化の発展の足跡
- 細川ガラシャと明智光秀のゆかりの地
- 古代「丹後王国」の光芒
- 近代軍港・要塞と近代産業遺産群
- 貴族たちの憧憬～山城の古社寺巡礼～

<文化庁の概算要求>

- ◎ 日本遺産魅力発信推進事業 6 億円（新規）

有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定する仕組みを創設。文化財群を総合的に整備・活用し、世界に戦略的に発信することにより地域を活性化

◎ 「日本遺産」への登録を京都府から提案する資産群

資産群	概要・ストーリー
①天と地と海をつなぐ天橋立	古来、神が天上と地上とを行き来するこの地は、宇宙の力があふれ出す天と地と海の気が融合するスピリチュアルな空間を形作っています。海中の白砂青松・天橋立は、奇瑞として龍に例えられ、天に昇る昇竜、力強い飛龍、機会を窺う臥龍、力を蓄える伏龍となっていて、この地で会うことができます。また、奇跡を祀り支えてきた人々の生活も、府中の街並み、天と地と海の際に暮らす舟屋群となって今なお残り、出迎えてくれます。
②日本の茶文化の発展の足跡	800年前、名僧明惠上人により宇治にもたらされた茶は、やがて足利義満・義政、千利休、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康・家光に天下の銘茶と認められ、更に栽培の工夫、製茶の革新を重ね、抹茶・煎茶・玉露の最高級茶を作り続けています。今も、天まで届かんばかりの、まるで絨毯の様な山なり茶畑や昔ながらの覆い茶園、風格ある茶問屋街には、馥郁とした香氣ある柔らかな風が吹いています。
③細川ガラシャと明智光秀のゆかりの地	夫への愛と信仰に生きた悲劇の主人公ガラシャは、明智光秀の娘・玉として生まれ、細川忠興に嫁ぎました。光秀が善政を敷いた丹波の地は、やがて謀反を決意する地となり、本能寺の変、天王山の戦いに向かいいます。玉は山深い地に幽閉され、後にキリストンとなり、関ヶ原の戦いで人質になることを拒み、信仰に従い短い生涯を閉じました。欧州・ハプスブルグ家でも好んで語られたガラシャの生涯をたどります。
④古代「丹後王国」の光芒	日本海に沈む太陽が、波を丹（赤）色に染めて見せ丹後の地は、大陸文化をもたらす地でした。我が国最古の天女・浦島伝説の地や元伊勢、最初の稻田と伝わる「月の輪田」、巨大古墳群や出土した圧倒的数の鉄器やガラス玉、もののけ姫を彷彿させる製鉄址を訪れる旅は、神話、伝説から考古、歴史へとたどる古代丹後王国への想いをかき立てて止まない古代ロマンの旅です。
⑤近代軍港・要塞と近代産業遺産群	明治維新後、西欧列強を目指す日本政府は、富国強兵・殖産興業を掲げ近代化に邁進しました。ロシアの南進政策への備えとして日本海側最大の軍港・日本海側唯一の要塞地帯として舞鶴を整備し、東の富岡製糸場に対し西のグンゼを起こし、鉄道を敷設し、ニッケル鉱山を開きました。我が国の近代国家としての青春期に、成長を支えた日本海側の一大拠点の地を巡れば、今なお、坂の上の雲を目指す若々しい息吹を感じることができます。
⑥貴族たちの憧憬～山城の古社寺巡礼～	南山城・乙訓は、京都と奈良との間にあり、風光明媚な地で古来、貴族たちの憧れの聖地でした。筒城宮・弟国宮、恭仁京、長岡京といった歴代天皇の宮址や古くからの伝説に彩られた神社を歩き古代に想いを馳せ、天平の昔から、極楽浄土の夢をこの世に開花させようと建立した山間の古い寺院を巡り祈れば、明日への希望と心の平安を取り戻すことができます。

【京都府の担当課】

企画理事（地域構想推進担当）075-414-4529